

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要(Plan)	KPI指数(令和4年度目標値)	令和4年度の取組の状況(Do)	進捗状況	取組の検証(Check)	取組の改善案(Act)	令和5年度の活動計画
1	I.「高めて、広げる」	①外国人観光客の受入促進	1-1外国人観光客の受入促進	外国人観光客にとってのデスティネーション(旅の目的地)形成に向けた受入基盤整備、WEBやSNSほかデジタル技術を活用した海外向け情報発信、海外での商談会、海外インフルエンサーの活用、外国人に対応できる人材の育成等により、アフターコロナの外国人観光客から「選ばれる観光地」を目指します。	①外国人観光客向けのツアー販売 紹介数 1回 ②海外ターゲット国への効果的な情報発信 国数3か国 ③海外旅行博、商談会の実施 件数 3件	①外国人観光客向けのツアー販売 紹介数 7回 ②海外ターゲット国への効果的な情報 発信国数3か国 ③海外旅行博、商談会の実施 件数 4件 ○デジタルマーケティング・情報発信業務(DMO)	順調	・入国制限解除を含む水際対策の緩和、また円安の背景もあってインバウンドから日本への注目度は高く、八幡平市にはR4冬頃から海外ツアーの復活が見え始めた。 ・今後旅行の形態が平常化していくにつれて、ツアー受入もさることながら、個人旅行者、少人数グループへの対応が必要になると考えられる。	・海外ターゲット国への効果的な情報発信について、今後はCRMなどの活用と統合していくことも検討余地である。	○外国人観光客受入基盤整備・情報発信業務(DMO) ・外国人観光客向けのツアー販売 ・海外ターゲット国への効果的な情報発信 ・海外旅行博・商談会の実施(台湾・シドニー・JNTOと連携)
2	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2-1「すべての人が楽しめる」ナショナルパーク八幡平の環境整備	ナショナルパーク八幡平は、山頂付近の勾配が非常に緩やかで、誰もがアクセスしやすい日本百名山です。これを、誰もが到達できる、ユニバーサルデザインの百名山として捉え、老若男女、年齢や身体的な理由で登山を諦めていた人にも、登山の魅力を提供できる、ユニバーサルツーリズム(すべての人が楽しめるよう創られた旅行)を推進します。	①木道・遊歩道、案内板の整備 実施箇所 1か所 ②ユニバーサルツーリズムツアーの検証・実施 モニターツアー-R8までに1回	①木道・遊歩道、案内板の整備 実施箇所 2か所 ②ユニバーサルツーリズムツアーの検証・実施 - ○黒谷地温原木歩道改修(県) ○御在所沼遊歩道改修(市)	順調	・ユニバーサルツーリズムの推進に向けた具体的な検討のため現状を整理する必要がある。 ・国立公園内での取組のため、環境省、森林管理署、県等の関係機関を巻き込んだ合意形成が必要となる。	・観光施設の状況把握や他地域の取り組みなどを参考とする。 ・環境省、県、関係機関との意見交換を行う。	○自然保護管理員のバトロールで把握した木道、遊歩道、案内板の修繕箇所について、管理者である岩手県に対して要望を行う。(市) ○黒谷地温原木歩道改修(県) ○御在所沼遊歩道改修(市) ○ユニバーサルツーリズムの取り組みについて、観光施設の現状把握、山岳関係団体と意見交換を行う。
3	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2-2トレッキングガイドの観光商品・受入基盤整備	トレッキングガイドの利用促進や人材の確保、質の向上を目的に、八幡平山頂エリアのガイド人材の育成、WEBによるガイド予約販売の仕組みを構築し、ツアー造成や販売を実施します。	①50kmトレイル等ガイド付きツアーのWEB予約・販売の仕組みづくり R6構築完了 ②とびっきりな八幡平の魅力を際立たせるツアー造成・販売 6回 ③プロガイドの育成・確保に向けた基盤整備 検討開始	①50kmトレイル等ガイド付きツアーのWEB予約・販売の仕組みづくり - ②とびっきりな八幡平の魅力を際立たせるツアー造成・販売 6回 ③プロガイドの育成・確保に向けた基盤整備 検討開始 ○観光客受入環境整備事業(DMO)	順調	・外国人観光客からは、地域ガイドやスルーガイドのニーズが出始めており、富裕層向けも合わせてガイド育成を検討していく必要がある。 ・八幡平山頂エリアのガイド人材の確保が急務である。	・プロガイドの育成等については、「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業など観光庁事業との連携を検討する。 ・ガイド人材として活躍していただけるような取り組みが必要である。	○観光地の持続化・エリアブランド化業務(DMO) ・トレッキングガイドの観光商品・受入基盤整備 ○八幡平市自然ガイド養成事業(協会) ・八幡平山頂エリアのガイド人材の養成。
4	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2-3アドベンチャーツーリズムの観光商品強化	十和田八幡平国立公園及び周辺エリアにおいては、高単価な客層に対して「自然」、「アクティビティ」、「文化体験」の3要素のうち2つ以上で構成される「アドベンチャーツーリズム」の付加価値の高い観光商品の造成と営業強化を実施します。	①北東北と連携した広域アドベンチャーツーリズムの観光商品造成・販売数 R6~R8 年1件	①北東北と連携した広域アドベンチャーツーリズムの観光商品造成・販売数 1件 ○デジタルマーケティング・情報発信業務(DMO) ○【観光庁】「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」	順調	・インバウンドの回復により、改めて広域での周遊ニーズが高まりつつある。 また、地方における高付加価値インバウンドのモデル事業を通じて、北東北のDMOと連携した商品造成の基盤構築が必要である。	・商品造成した後の体制の構築を検討する	○インディパスを活用したツアーの継続展開(事業者) ○「東北地方におけるトレイルコンテンツを活用した持続可能性向上に向けた調査事業」を活用した人材育成やアドベンチャーツーリズムワールドサミットへのアプローチ(事業者)
5	I.「高めて、広げる」	②自然を楽しむアドベンチャーの推進	2-4モリアオガエルをアイコンとしたブランディング	「大湯沼モリアオガエル及びその繁殖地」は国指定から50周年を迎えます。市民も観光客も、八幡平の豊かな森と自然に誇りを持ち、天然記念物の生息地を保護する活動を広げ、ナショナルパーク八幡平を象徴するアイコンとして、ロゴやキャラクターの整備、各種情報発信やツアー造成、土産品開発等の活用を推進します。	①モリアオガエルをアイコンとしたプロモーション R8 完了 ②モリアオガエル観察会の検討・実施 R8までに 1件 検討	①モリアオガエルをアイコンとしたプロモーション - ②モリアオガエル観察会の検討・実施 - ○八幡平市観光協会事業委員会に「モリアオガエル部会」を立ち上げ2回開催した。 ○モリアオガエルの写真展を実施した。	やや遅れ	・国指定天然記念物50周年を迎えたモリアオガエルを新たなアイコンとして観光振興を図ろうと取り組んだが、市全体を巻き込んだ取り組みに至らなかった。	・観光協会モリアオガエル部会で、計画を具現化できるかを検討し、現状の改善を図る。	○モリアオガエル部会開催の頻度を上げ、所期の目的を達成できるよう取り組む。(協会)
6	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3-1市内スキー場のインフラ投資、DX基盤整備	スノーリゾートを最大の武器に、インバウンドの伸びを加速させるため、ICゲート等スキー場の適切なインフラ投資、人手と人材の両面での不足を補い、CRMを高度化するDX基盤整備の推進、広域共通リフト券の展開、グリーン期の受入基盤整備、スキー場間をつなぐ公共交通手段の確立等を支援することで、スキー場の魅力化を狙います。	①スキー場インフラ整備の支援 申請回数1回 ②CRM基盤構築 R8構築完了	①スキー場インフラ整備の支援 申請回数1回 ②CRM基盤構築 取組に向けた申請1件 ○【観光庁】「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」(DMO) ○全国商工会連合会の補助金申請	順調	・事業の推進にあたっては、事業計画、資金調達などの様々な調整が重要である。 ・地域一体となったDX推進のためには、参画事業者を増やす取組やDXに対する理解促進が必要	・事業の説明会等、合意形成を推進	○【全国商工会連合会】共同・協業販路開拓支援補助金(DMO) ・CRM構築基盤システムの整備 ・八幡平ファンの構築 ○【観光庁】「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」(DMO) ○観光地の持続化・エリアブランド化業務(DMO)
7	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3-2海外ファミリー層、富裕層向けの観光商品開発	ハロウィンターナショナルスクール安比ジャパンの開校を経済効果の機会として、ファミリー向けコンテンツの開発や海外ファミリー層への発信、芸術とのコラボレーションといった上質なコンテンツの開発、グリーン期のコンテンツ開発等、富裕層受入に見合う価値の創出を行います。	①ファミリー向け雪遊び観光商品の充実化 コンテンツ開発1回 ②スキー場×アート、テーマパーク化など上質な価値の創出 実施数1回	①ファミリー向け雪遊び観光商品の充実化 コンテンツ開発1回 ②スキー場×アート、テーマパーク化など上質な価値の創出 実施数2回 ○デジタルマーケティング・情報発信業務(DMO) ・Snow Travel Expo in Sydney 2022 出展、旅行会社営業。 ・JR東日本びゅうツーリズム&セールスと連携し、ファミリー向けサステナビリティ学び旅のツアー造成。	順調	・安比高原では、スキー場の新たな魅力化として、グリーンシーズンのアートイベント、また補助金を活用して恐竜テーマパークの移設を実施している。 ・八幡平リゾートパノラマスキー場では、ファミリー&キッズ向けのロングチュービングコース、下倉スキー場では中上級者向けのツリーランコースなど、新たな魅力化を実施している。 ・海外を含めたファミリー層向けの設備が充実してきているが、富裕層向けのコンテンツやガイド等が不足している。	・富裕層とはどんなターゲットなのかを検討し、八幡平市でできる持続可能な高単価コンテンツ、おもてなしガイドの育成等を実施する必要がある。	○【観光庁】地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業(DMO) ○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(協議会)

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要(Plan)	KPI指数(令和4年度目標値)	令和4年度の取組の状況(Do)	進捗状況	取組の検証(Check)	取組の改善案(Act)	令和5年度の活動計画
8	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3-3宿泊施設、観光施設の上質化や多様化	国等の支援を活用し、スキー場や国立公園のベースタウンとなる宿泊施設や観光施設において、上質かつ多様な滞在環境の開発促進を行います。宿泊事業者の高齢化等が進む八幡平温泉郷においては、泊食分離、地域まるごとホテルの推進等、中長期滞在者を対象とした滞在環境の充実化を図ります。また、ワーケーション滞在等の支援も引き続き実施します。さらに、今後の観光集客における重要な要素として、省エネ、カーボンニュートラル、廃棄物の削減を意識した取組を行います。	①サステナビリティを意識した宿泊施設・観光施設の改修1施設 ②八幡平温泉郷の泊食分離・地域まるごとホテルの推進2施設	①サステナビリティを意識した宿泊施設・観光施設の改修5施設 ②八幡平温泉郷の泊食分離・地域まるごとホテルの推進0施設 ○地域観光の満足度向上事業(DMO) ・【観光庁】地域一体となった観光地の再生・高付加価値化事業(DMO)	やや遅れ	・観光庁「地域一体となった観光地の再生・高付加価値化推進事業」の地域計画が採択され、宿泊事業者が国の1/2補助を活用して宿泊施設の改修に取り組んだ。 ・地域まるごとホテルの推進に関しては、オーナー自身による改修・簡易宿所登録等に時間を要している。	・地域まるごとホテルの取り組みを推進するため、八幡平DMOが八幡平温泉郷に拠点を置き、地域での理解促進やコンシェルジュサービス提供に務めることで、推進力を維持していく。	○観光地の持続化・エリアブランド化業務(DMO) ・富裕層向けの観光商品開発 ・八幡平温泉郷・地域まるごとホテル ○【観光庁】地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業(DMO)
9	I.「高めて、広げる」	③国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進	3-4バックカントリーの受入環境整備	CAT(雪上車)利活用推進やバックカントリーエリアでのマナー啓発、雪崩リスク管理や環境破壊への対策、夏季の環境整備等を通じて、持続可能な八幡平バックカントリーエリアを推進します。	①バックカントリーエリアの持続可能性に関する啓発につながるワークショップ 実施数 R5-R8 各1回 ②CATを利用したバックカントリースキー/スノーボード以外のメニューの開発 商品数 R6-R8 各1商品 ③持続可能と地域との共存を前提としたCATの運行 稼働率 61%	①バックカントリーエリアの持続可能性に関する啓発につながるワークショップ 実施数 2回 ②CATを利用したバックカントリースキー/スノーボード以外のメニューの開発 商品数 1回 ③持続可能と地域との共存を前提としたCATの運行 稼働率 56.8% ○バックカントリー環境整備事業(大黒森組合) ・CATスノーシューツアーの実施	順調	・令和4年度は、八幡平エリアにおける遭難が2件発生し、CATを活用して警察の輸送に協力するなどし、防災、八幡隊との協力の取組みが行われた。 ・大黒森管理協同組合に関わるバックカントリーについても、インバウンドや富裕層の利用が増え、また、CAT非利用の地域の愛好家たちへの活動の理解も進んでいる。 ・スノーシューツアーについては、天候や機材トラブルのリスクがあるものの、高い商品価値があるツアーであることは改めて確認ができた。	・市の防災セクション及び八幡隊との連携の枠組みを議論する ・旅行会社と連携してスノーシューの商品造成 ・エリアの有り方やルールの有り方を多様な関係者を交えて意見交換を行う。	○バックカントリー環境整備事業(大黒森組合) ・大黒森管理組合でBCワークショップを実施 ○国有地(ゲレンデ)借上げ(市)
10	I.「高めて、広げる」	④スポーツツーリズムの推進	4-1スポーツツーリズムの推進	スキー場やサッカー場、ラグビー場等の施設を活用したスポーツツーリズムによる受入を推進します。また、社会人チームの誘致、観光資源との連携による延泊につながる取組により経済効果の拡大を狙います。	①スポーツ合宿、社会人合宿の受入推進 誘致チーム 1チーム ②観光資源との連携による延泊の推進(合宿者への商品紹介) 紹介チーム数 R5-R6 各3チーム、R7-R8 各6チーム	①スポーツ合宿、社会人合宿の受入推進 誘致チーム 0チーム ②観光資源との連携による延泊の推進(合宿者への商品紹介) 紹介チーム数 - ・通年でスポーツ合宿及びスポーツイベントの招致活動を継続して行い誘客を促進した。	やや遅れ	・スポーツ合宿の誘致は、なかやま荘の宿泊廃止、アクティブリゾート岩手八幡平の営業休止などの宿泊施設の減少、グラウンド数が限られることにより、新規の受入れそのものが厳しい状況となっている。	・宿泊施設数やグラウンド数により、受け入れ体制に合ったスポーツ合宿、大会の誘致に切り替える必要がある。 ・市全体のそれぞれのエリアで各種スポーツ合宿誘致を推進できるよう関係各位で検討することが必要	○八幡平スポーツ誘致委員会として、スポーツ大会、合宿の誘致(協会) ○合宿誘致の受入れに向けた関係機関との連携を強化し、情報共有する体制を構築する。
11	I.「高めて、広げる」	④スポーツツーリズムの推進	4-2サイクルツーリズムの振興	八幡平アスピーテラインや八幡平パラマライン等、景観に優れたルートを活用し、八幡平ヒルクライム大会の実施や、e-bikeを活用したライドツアーを造成します。また、国内外に八幡平サイクルツーリズムの情報や魅力の発信を行います。	①e-bikeを活用したMTB等ツアーの造成 造成数 R5から 1ツアー ②サイクルイベント・ツーリング大会等の誘致 大会数 1大会 ③サイクル・ツーリングコースの情報発信 情報発信の実施 - ○【観光庁】「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」(DMO)	①e-bikeを活用したMTB等ツアーの造成 造成数 1ツアー ②サイクルイベント・ツーリング大会等の誘致 大会数 1大会 ③サイクル・ツーリングコースの情報発信 情報発信の実施 - ○【観光庁】「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」(DMO)	順調	・温泉郷エリア、細野エリアのペンション/ロッジのガイドによるE-BIKEを利用したガイドツアー商品が展開できるようになった。また、敷地内でMTBのアドベンチャーコースを整備した事業者や安代地区でのE-bikeのレンタサイクル事業が展開されたり、安比高原では修学旅行等に向けてゲレンデでのMTB体験を実施するなどの取組がそれぞれ進んできている。	・サイクリング事業者同士の連携や情報発信の枠組みについて、協議を行う場を設け、上記の論点を検討していく。 ・体験OTAの積極的な活用や、旅行会社による販売チャネル構築を進めつつ、事業者の負担が少ない在庫管理や掲載情報管理の方法を模索する。	○体験OTAや旅行会社と連携した販売促進(DMO) ・関係事業者のヒアリングを通じて、面的な推進方法のあり方、及びサイクルツーリズムに必要な地域としての整備のニーズを確認する。
12	II.「伝えて、育む」	⑤地熱等の資源からSDGs、サステナビリティを学ぶ	5-1地熱、松尾鉱山等を活用した教育旅行、企業研修の推進	地熱発電所による地熱資源を活用した農業や地熱蒸気を使った地熱染め、安比高原中のまきばの野芝の再生活動等、サステナブルな取組が行われています。こうした地域資源や松尾鉱山の学びを生かして、教育旅行や企業研修誘致の取組を推進し、閑散期の集客を目指します。	①SGDs教育旅行のプラン造成・情報発信、受入の支援 教育旅行の新規誘致数 2校 ②高単価な企業研修受入の推進 企業研修の新規 1社	①SGDs教育旅行のプラン造成・情報発信、受入の支援 教育旅行の新規誘致数 2校 ②高単価な企業研修受入の推進 企業研修の新規 1社 ○観光地の持続化・エリアブランド化業務(DMO) ○観光協会事業委員会に「教育旅行部会」の設立。 ○日本能率協会と連携し、三菱電機工業の企業研修受入の実現	順調	・大型の教育旅行を受入れできる宿泊施設が減少しつつある。 ・観光の担い手不足なども懸念される今後は、閑散期の新たな魅力づくりなども検討材料にしながら、教育旅行受入をどのように推進するか改めて検討する時期に来ているとも考えられる。	・価格、受入れ時期などを明確にした商品造成の検討を行う。	○観光地の持続化・エリアブランド化業務(DMO) ・SDGs修学旅行 ・観光学習コンテンツを活用したツアー造成等
13	II.「伝えて、育む」	⑥地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用	6-1歴史的・文化的資源を活用した広域連携の強化	令和2年「奥南部」漆物語～安比川流域に受け継がれる伝統技術～が、文化庁の日本遺産に認定されました。また、令和3年には「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されたことにより、北東北での周遊のニーズが高まると想定されます。江戸時代の物流を支えた鹿角街道、古くから続く馬事文化に絡め、安比高原中のまきばも、地域資源として積極的に活用し、文化や歴史を共有する自治体との広域連携強化を推進していきます。	①漆器、鹿角街道、縄文などをテーマとした広域ツアー造成、販売 歴史文化ツアー組込数1回	①漆器、鹿角街道、縄文などをテーマとした広域ツアー造成、販売 歴史文化ツアー組込数1回 ○【観光庁】「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」(DMO) ・安代地域～鹿角街道をE-bikeでめぐり、安比塗でランチを楽しむ周遊ツアーを造成	順調	・八幡平市内だけでは完結しないストーリーも多いので、周辺エリアとの具体的な連携が必要	・周辺地域と連携したツアー造成と、地域を横断するスルーガイドの育成が必要	○【観光庁】「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業(協議会) ○日本遺産事業と連携した取組み(市)

No.	アクションプラン	施策	主な取組	取組の概要(Plan)	KPI指数(令和4年度目標値)	令和4年度の取組の状況(Do)	進捗状況	取組の検証(Check)	取組の改善案(Act)	令和5年度の活動計画
14	Ⅱ.「伝えて、育む」	⑥地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用	6-2食の体験コンテンツ強化	地域食材の活用や食の体験コンテンツの提供を推進し、観光客の満足度向上につなげます。また、アグリツーリズムをテーマとした食や農の体験プラン造成、食材情報プラットフォームの整備を通じ、農(みのり)の観光コンテンツ化を目指します。	①食材情報のプラットフォーム整備 食材情報WEBページ構築 R8までに構築 ②アグリツーリズムをテーマにした周遊プラン等商品開発 新規事業者数 R6-R7 1件、R8 2件	①食材情報のプラットフォーム整備 食材情報WEBページ構築 - ②アグリツーリズムをテーマにした周遊プラン等商品開発 新規事業者数 - ○【観光庁】「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」(DMO) ・八幡平食材の情報収集、「八幡平山弁」「八幡平山ぶどうレトルトカレー」の開発	順調	・地産地消の機運が高まっており、ANAインターコンチネンタル安比高原リゾートやノーザングランデ八幡平など、地域の食材を活用したメニューの提供の機会が増加している。 ・地元食材を活用することはサステナブルな取り組みであり、ホテルや飲食店で積極的に地産地消の取り組みが強化されることで、地域の食の魅力を伝えるきっかけにもなる。	・八幡平市には豊かな食材が多くあるが、加工品がなく、地元食材等を活用した土産品が乏しい。こうした加工品などの取り組みも今後検討していくと、食材と地域のPRに繋がり、地域経済貢献に寄与することとなる。	○食材情報WEBページ構築に向けた検討(DMO) ○アグリツーリズムをテーマにした周遊プラン等商品開発(DMO)
15	Ⅱ.「伝えて、育む」	⑥地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用	6-3市民向けの観光体験提供	市民や、次世代を担う子供達が地域への誇りと愛着を醸成する取り組みとして、観光に関する授業や市民向けの観光体験会を実施し、観光人材の確保につなげます。	①平館高校への観光授業の提供 観光人材の確保 2名 ②市民向け観光体験会の実施 実施回数 4回	①平館高校への観光授業の提供 観光人材の確保 2名 ②市民向け観光体験会の実施 実施回数 4回 ○DMO調査・分析事業・地域人材育成等業務(DMO) ○観光地の持続化・エリアブランド化業務(DMO)	順調	・平館高校を卒業後、八幡平でシェフになりたいという意志や、八幡平で観光関連の職業に従事するなど、少しずつ帰郷志向の兆しが見え始めている。	・市内学生や平館高校卒業生がつながるネットワークを利用し、地域での就業情報などの紹介に向けての検討	○地域観光の満足度向上事業(DMO) ・平館高校への観光に関する授業の提供
16	Ⅲ.「つなぐ」	⑦豊かな観光資源を次世代につなぐ	7-1観光資源の保全	貴重な観光資源の喪失を防ぐため、市民や観光関係事業者を中心に、観光資源の維持・保全に係る取組みや民間資金を募るクラウドファンディング等による資金調達を検討します。また、これまでの活動を支援し、次世代に観光資源を引き継ぐ活動に取り組んでいきます。	①自然保全・環境問題の取組み 実施回数 1回 ②関係機関との連携 連携団体数 1団体	①自然保全・環境問題の取組み 実施回数 1回 ②関係機関との連携 連携団体数 0団体 ○八幡平外来植物駆除活動の実施	やや遅れ	・外来植物駆除活動は松尾中学校の環境学習として定着した行事であり、未来につなげる活動として継続することが重要である。 ・新たな取り組みも含めて、市民や民間団体を巻き込んだ活動に広げられるよう検討が必要である。	・外来植物駆除活動の取り組み等を情報発信することにより、市民や民間団体に自然環境の維持・保全の理解を深める活動	○松尾中学校生徒による八幡平外来植物駆除活動を実施(市・協会) ・情報発信に向けた検討を行う。
17	Ⅲ.「つなぐ」	⑧交通アクセスの拡充	8-1交通アクセスの拡大・改良	観光需要に配慮したコミュニティバスの利用検討と電気バスやEV車等の導入の推進、自家用有償運送等の新たな移動手段の検討と岩手山サービスエリアのバス停設置を通じ、観光客のアクセス向上を目指します。	①市内バス運行の効率化(岩手山SAバス停設置、コミュニティバス利用等) 新たな運行構築 R8構築完了 ②電気バス・EV車等の新たな移動手段の導入 EV車の導入台数 R8まで1台 ③自家用有償運送・ガイドによる観光客送迎の実施とエリア拡大 R5から1エリア	①市内バス運行の効率化(岩手山SAバス停設置、コミュニティバス利用等) 新たな運行構築 - ②電気バス・EV車等の新たな移動手段の導入 EV車の導入台数 - ③自家用有償運送・ガイドによる観光客送迎の実施とエリア拡大 - ○自家用有償運送についての情報収集を行った。 ○八幡平市地域公共交通活性化協議会による協議	やや遅れ	・盛岡～八幡平市間の路線バス再編の状況を踏まえ、観光バスの効率と並行して検討する必要がある。 ・他地域で取組み事例のある「オンデマンド交通」等の可能性の検討が必要	・八幡平市地域公共交通活性化協議会との連携、路線バス、花輪線と一体となった交通網としての検討	○関係機関から自家用有償運送実施についての情報収集(市) ○八幡平市地域公共交通活性化協議会による協議(市) ○他地域の取組みの研究(市)
18	Ⅲ.「つなぐ」	⑨観光推進体制の強化	9-1観光推進体制の強化	市観光協議会や市観光振興審議会と連携し、計画のPDCAを推進し、進捗状況を評価や検証する体制を強化します。さらに、観光経営人材育成や観光施策財源確保に向けた検討を行います。また、関係人口、交流人口の増加につながる、ファンコミュニティの仕組みづくりを構築します。	①観光地域づくり法人(観光プラットフォーム)の体制強化 協議会実施回数 4回 ②ファンコミュニティの形成 ファン数 R8までに10,000人	①観光地域づくり法人(観光プラットフォーム)の体制強化 協議会実施回数2回、審議会3回、事務局定例会12回 ②ファンコミュニティの形成 ○観光客受入環境整備業務(DMOも) ・CRM構築に係るファンコミュニティの設計 ・PMS導入の支援とデータ連携による情報フィードバック	順調	・観光協議会に提出する内容が膨大なため、定期的な情報提供が必要である。 ・観光協議会以外にも情報共有できる方法を検討する。	・事務局定例会で協議した内容を、メール等を利用して情報共有する。	○協議会等の定期的な実施(市) ○DMO調査分析業務(DMO) ・満足度、観光消費等マーケティングデータ収集及び分析※登録DMO必須 ・ファンコミュニティの形成